

平成 27 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 27 年 5 月 28 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス(チャノキイロアザミウマについて)	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は**やや遅**、発生量は**平年並**と予想されます。イネクロカメムシの発生量は**やや少**、イネミズゾウムシの発生時期は**遅**、発生量は**やや少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病(温州みかん)の発生量は**平年並**と予想されます。黒点病、かいよう病(中晩柑)、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されます。発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されま

す。

ブドウでは、べと病の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。特にこの時期は、ナシ、カキ等が加害されるおそれがあるので、圃場をよく見回って飛来の状況を確認してください。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**多**と予想されます。カンザワハダニは多発圃場では防除しましょう。チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマは萌芽前～新芽生育初期に防除しましょう。炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。チャノホソガの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病の発生量は**やや多**と予想されます。圃場をよく観察し、早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。

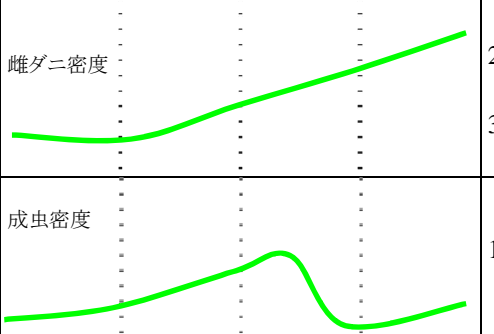
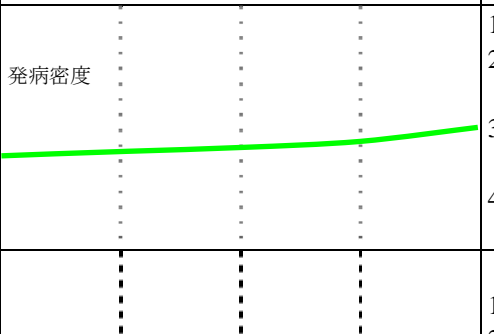
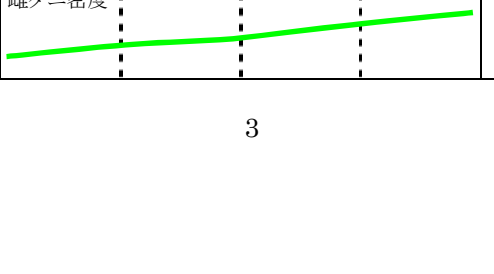
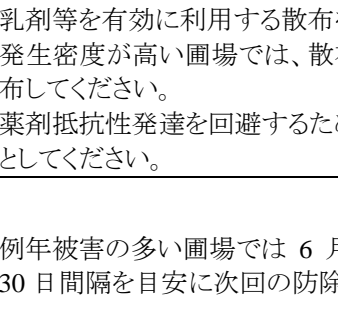
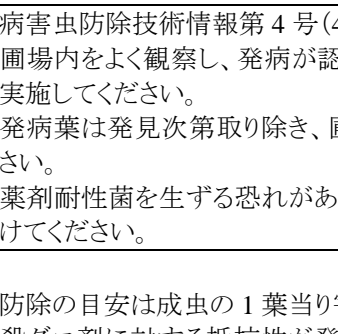
ネギでは、ネギコガの発生量は**平年並**と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	やや遅	平年並	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 補植用置き苗は発生源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。 2) 本田粒剤による予防は、初発前に行ってください。 3) いもち病発生予測支援システム(プラスタム)において、感染好適条件の現れた7~10日後に初発が予測されます。 4) プラスタムの最新情報は、病害虫防除所ホームページで随時更新しています。
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	普通		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークになる6月下旬に実施してください。
	イネミズゾウムシ	遅	やや少	小	低		成虫誘殺数 ↓			<ol style="list-style-type: none"> 1) 株当たり0.5頭以上の成虫が発生していれば、防除してください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 梅雨明けまで幼果に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、予防散布が重要です。
	黒点病	—	やや少	小	普通		発病密度 ↓			<ol style="list-style-type: none"> 1) 生理落果盛期~後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 旧葉で越冬病斑が見られる圃場では、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。 2) 越冬病斑が見られない圃場でも、本病に弱い品種(カラ、セミノールなど)では、幼果への感染防止対策として予防散布を実施してください。 3) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで果実への感染が起きます。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	雌ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくい時期です。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 2) 発生密度が高い圃場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年1回としてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 例年被害の多い圃場では6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第4号(4月30日発表)。 2) 圃場内をよく観察し、発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。 3) 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 4) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため同一系統薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	雌ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 防除の目安は成虫の1葉当り寄生頭数が1頭以上の時です。 2) 殺ダニ剤に対する抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が連続すると急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察し、病斑を認めたら直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害果穂は発見次第取り除き、圃場外に持ち出し処分してください。
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫発生予察注意報第2号(5月25日発表)。 2) 降雨がなく気温の高い夜に飛来が多いので、夜間の街灯に注意したり、圃場を見回るなどして、早期発見に努めてください。 3) 山林に近い圃場では特に注意が必要です。 4) 薬剤散布はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。 5) 夕刻から活発に飛翔するので朝夕の薬剤散布が効果的です。近隣圃場と調整し、広い範囲で散布日を合わせて一斉防除することにより効果が高くなります。 6) 合成ピレスロイド系の薬剤を連続して散布すると、ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなる傾向があるので注意してください。
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 気温が25℃前後で降雨時間が長く湿潤であると多発します。 2) 毛茸の脱落する1葉期までに防除しましょう。 3) 6月上中旬頃の気象によっては感染が助長されるので注意しましょう。
	もち病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 気温が低い(15～22℃)と多発します。 2) 山間の日陰などでは注意しましょう。 3) やぶきた、くらさわなどの品種は感染しやすいので注意しましょう。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						5月	6月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	カンザワハダニ	—	多	大	高	雌ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第3号(4月21日発表)。 2) 気温が高く少雨が続くと多発しますので注意しましょう。 3) 有効積算温度による予測式では年間15世代(平年14世代)発生し、発生時期は10日ほど早いと思われます。 4) 葉裏に生息していますので丁寧に散布しましょう。 5) 天敵への影響の小さい薬剤を使いましょう。 6) 1世代が短く薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。
	チャノホソガ	—	やや少	小	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 防除適期は孵化直後の潜葉期(幼虫による絵描き状態)です。 2) 今年の発生時期は早いと考えられ、防除適期は6月第1半旬～第2半旬頃と思われます。 3) 葉裏の水滴状の卵を発見して初期防除に努めましょう。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	多	大	高	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 有効積算温度による予測式(5月26日予測)では第2世代成虫の発生最盛期は6月15日頃(平年6月21日頃)と早くなっています。 2) 二番茶の萌芽期～開葉初期に防除しましょう。
	チャノキイロアザミウマ	—	多	中～大	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 有効積算温度による予測式(5月26日予測)では第2世代成虫の発生最盛期は6月15日頃(平年6月23日)と早くなっています。 2) 二番茶の萌芽前～開葉初期に防除しましょう。
イチゴ	うどんこ病	—	やや多	大	普通	親株					<ul style="list-style-type: none"> 1) 今後1か月は感染しやすい時期です。圃場をよく観察し、早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。 2) 育苗圃で発生が多いと本圃でも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。 3) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。 3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、圃場外に持ち出して処分してください。 4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください(やさしく手灌水、チューブ灌水)。
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 春から秋にかけて4～5回発生します。 2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害するため、潜入防止のための早期防除が重要です。
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、大きな被害は見られませんが、繁殖力が旺盛なアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 中・老齢幼虫は殺虫効果が低くなるので、若齢のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	やや遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (発生時期+、発生量-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、置き苗での発生率0%(5年平均0%)、本田での発生圃場率0%(5年平均0%)と、平年並に少ない傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件から予想発生時期はやや遅、巡回調査結果および一般圃場での発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・昨年8月第2半旬~10月第6半旬)では、誘殺数は水田位置10頭(平年65.2頭)と少、畑位置325頭(平年2,669.3頭)と少 (—)</p> <p>考察: 予察灯の状況から越冬成虫数は少ないと考えられるため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~5月第4半旬)では、越冬成虫の最盛日は5月15日(平年5月7日)と遅、誘殺数は10頭(平年49.9頭)と少 (発生時期+、発生量-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生圃場率55.5%(平年63.7%)と少、被害株率14.6%(平年25.7%)と少、株当り虫数0.04頭(平年0.05頭)と少 (—)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概してやや少) (—)</p> <p>考察: 予察灯の状況から幼虫の予想発生時期は遅、予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬、無防除)では、新葉発病率91.5%(平年42.5%)と多、発病果率41.7%(平年0.2%)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉発病度0(平年0.04)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	黒点病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 県予察圃では、昨年10月下旬の果実発病度は80.2(平年81.7)でやや少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場では、昨年10月上旬の果実発病度8.8(平年19.8)と少 (－)</p> <p>4) 感染源となる枯枝は平年並の状況 (±)</p> <p>考察： 平年と比べて大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 県予察圃(新甘夏、無防除)における新葉での初発は、5月18日現在未確認(平年5月13日)と遅 (－)</p> <p>3) 県予察圃(5月中旬、新甘夏、無防除)では、新葉発病率0%(平年0.2%)と平年並 (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉発病率は温州みかんでは0.3%(平年0.3%)と平年並、中晩柑類では2.0%(平年9.3%)と少 (温州±、中晩柑－)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当り寄生頭数は、無防除区0頭(平年31.9頭)と少、慣行防除区0頭(平年0.8頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生圃場率30.8%(平年40.8%)と少、旧葉寄生率5.9%(平年12.0%)と少、寄生頭数0.25頭/葉(平年1.25頭/葉)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (－)</p> <p>考察： 現在の発生量は少と考えられますが、今後の気象を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概してやや少) (－)</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉率1.3%(平年0.3%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、寄生葉率0%(平年0.04%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉率は0%(平年0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町・5月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ47,840頭(平年667.5頭)と多、ツヤアオカメムシ3,348頭(平年1,689.0頭)と多 (＋)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:5月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ3,674頭(平年198.9頭)と多、ツヤアオカメムシ116頭(平年18.9頭)と多 (＋)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月1日～24日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で302頭(平年119.8頭)と多、中間地(津市白山町二本木)で708頭(平年225.6頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で835頭(平年70.8頭)と多 (＋)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週、カンキツ圃場)では、叩き落とし虫数0.2頭(平年0.2頭)と平年並 (±)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや多 (＋)</p> <p>考察：一般圃場の状況を重視して予想発生量はやや多と考えます。</p>
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (－)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、発生は未確認 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、新葉発病葉数0.11葉/m²(平年0.11葉/m²)と平年並であるが、過去10年で2番目に多い状況 (＋)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	もち病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、発生は未確認 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生は未確認であるが区外で病斑葉確認 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、寄生葉率3.0%(平年3.6%)と平年並、寄生頭数0.2頭/葉(平年0.12頭/葉)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生圃場率38.0%(平年28.4%)と多、寄生葉率9.6%(平年4.5%)と多、寄生頭数0.25頭/葉(平年0.1頭/葉)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>
	チャノホソガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(4月第4半旬～5月第4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数85頭(平年278.2頭)とやや少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、巻葉数0枚/m²(4年平均0.03枚/m²)と少の傾向 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(4月第4半旬～5月第4半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数4頭(平年5.0頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、叩き落とし虫数0.70頭(平年0.73頭)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量は多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃(4月第4半旬～5月第4半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数 630 頭(平年 1,010.7 頭)とやや少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、叩き落とし虫数 5.1 頭(平年 4.2 頭)とやや多 (＋)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (＋)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量は多と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 一般圃場では、本圃での発生量は平年並～やや多(概してやや多)、親株床でも同様の傾向 (＋)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 一般圃場では、現在、親株床で目立った発生はなし (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第6半旬～5月第5半旬)では、誘殺数 4 頭(平年 138.4 頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、被害葉率 0%(平年 0.1%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第6半旬～5月第5半旬)では、誘殺数 99 頭(平年 96.2 頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は微～やや少(概してやや少) (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

				平年値 ↓		
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「チャノキイロアザミウマについて」

1. どんな虫？

茶の新芽を加害する微小な害虫です。雌成虫の体長は 0.8～0.9mm、幼虫は淡黄色です。一般に「スリップス」と呼ばれることもあります(図 1)。



図 1 チャノキイロアザミウマ成虫(左)と幼虫(右)(茶業研究室原図)

2. 生態と被害

年間 7～8 世代発生します。越冬は主に成虫でおこなわれ、枝幹部の割れ目や包葉の中、落葉の裏、地表などで越冬します。1 月ごろから活動を始め 4 月中旬頃から新葉に産卵します。幼虫は新芽や若葉の表層を吸汁加害し、葉柄の基部、若芽の葉の主脈に沿って褐変します。加害された葉は硬く小型化し、ひどくなると落葉して萌芽しなくなります。(図 2)。

3. 防除

新芽の開葉初期に防除することが重要です。成虫密度の高くなる 5 月下旬頃が防除適期です。有効積算温度による予測式では、今年の発生時期は平年よりも 10 日ほど早いと予想されます。(表)

農業研究所茶業研究室(亀山市)における発生消長のグラフを、病虫害防除所ホームページで提供していますので参考にしてください。

(<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>)



図 2 被害葉、茶園の被害状況(茶業研究室原図)

表 有効積算温度によるチャノキイロアザミウマ成虫発生最盛日の予測結果(5月26日予測)

地点	世代	H27	平年	平年比(日)
四日市	第1世代	5月17日	5月28日	-11
	第2世代	6月15日	6月23日	-8
亀山	第1世代	5月16日	5月27日	-11
	第2世代	6月15日	6月23日	-8
粥見	第1世代	5月18日	5月26日	-8
	第2世代	6月16日	6月23日	-7

農薬はラベルを確認して正しく使用してください。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 27 年 5 月 21 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月の平均気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込みです。日照時間は平年並または多い見込みです。

1 週目 5 月 23 日～ 29 日	期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れますが、中頃は気圧の谷や前線の影響で雲が広がりやすく雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・4.2 日
2 週目 5 月 30 日～ 6 月 5 日	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。	同 1.8 日・4.0 日
3～4 週目 6 月 6 日～ 19 日	例年では低気圧や前線の影響を受ける時期となりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。	同 5.2 日・6.3 日

東海地方週間天気予報 (平成 27 年 5 月 27 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

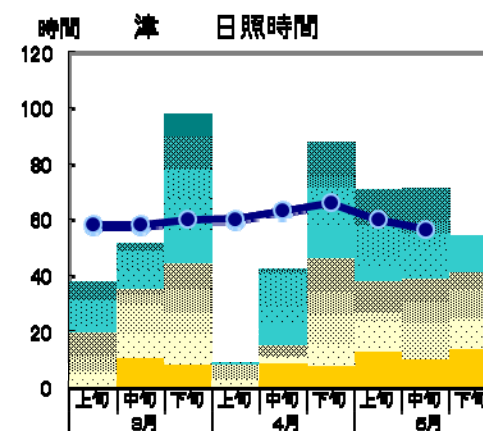
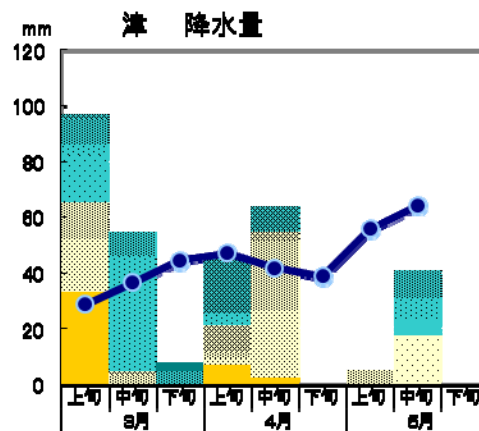
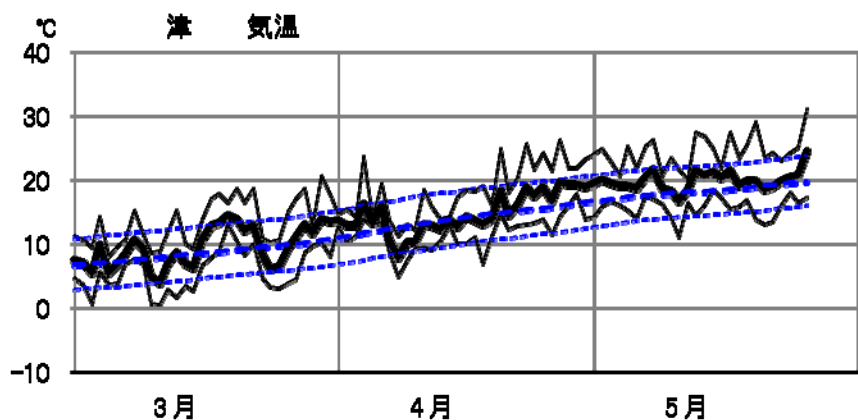
予報期間 5 月 28 日～6 月 3 日

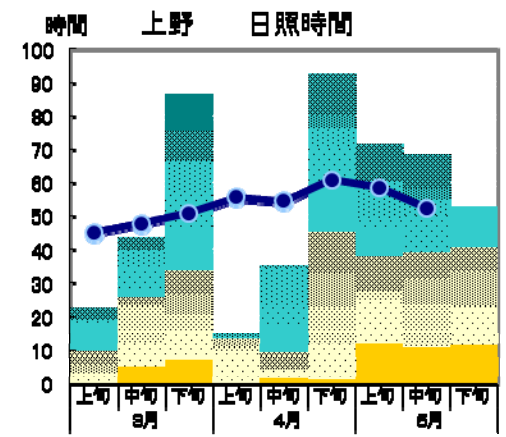
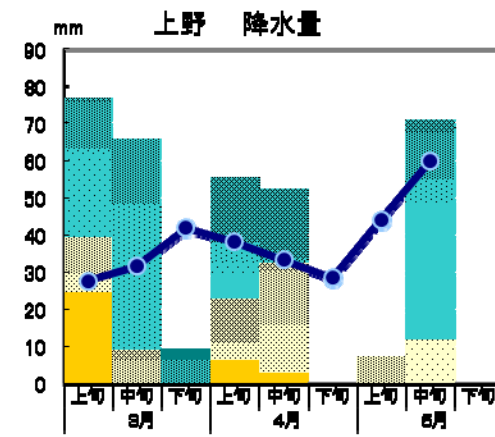
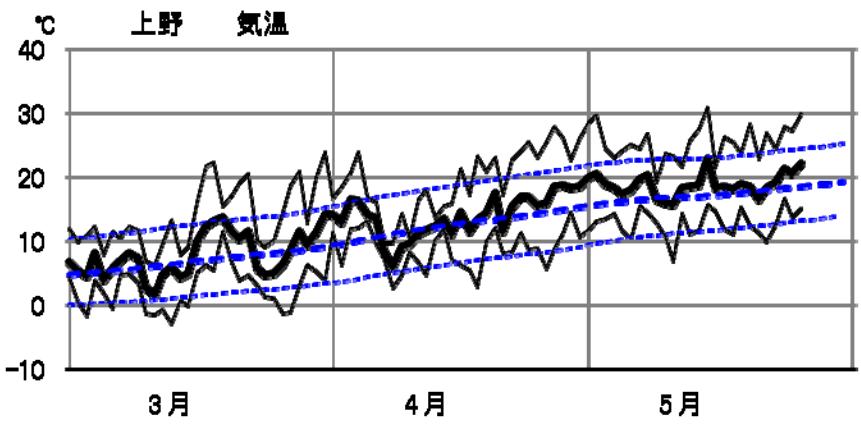
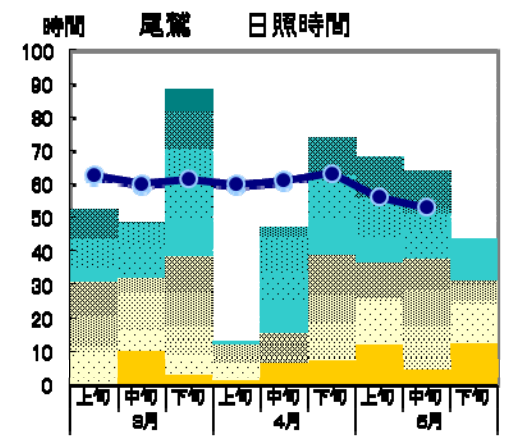
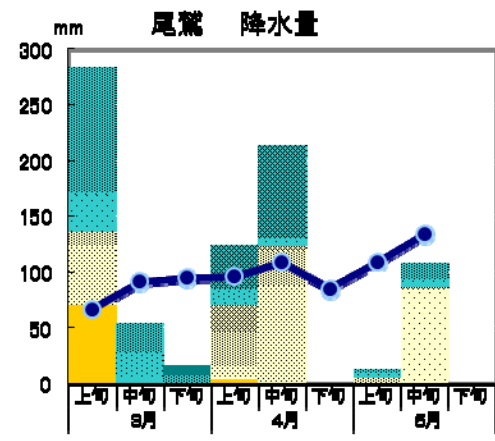
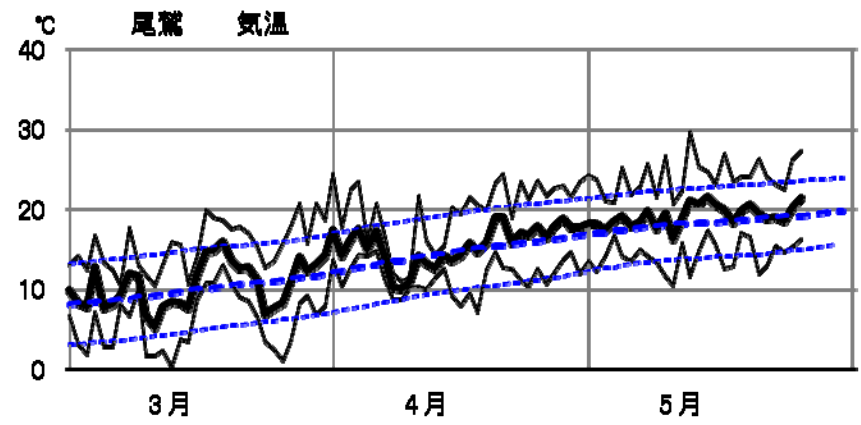
向こう一週間は、期間のはじめと終わりには高気圧に覆われて晴れる日もありますが、前線や気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間の中頃には雨の降る日があるでしょう。

最高気温は平年並か平年より高く、最低気温は平年より高いでしょう。

降水量は平年並か平年より多い見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5 月 26 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 年平均
- - - 年最高
- - - 年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日(木)	第2回 5月28日(木)(今回)
第3回 6月25日(木)	第4回 7月23日(木)
第5回 8月27日(木)	第6回 10月22日(木)
第7回 3月24日(木)	

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>